



VOL. 25

2008・春号

「あいのかぜ」は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人ひとりが男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募による3人の編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。タイトルの「あいのかぜ」は、「私(英語でI)の風」(「あいの風(富山弁で北東からの涼しい風)」)、「愛の風」を表しています。

日本女性会議2008とやま情報

いよいよ、今年10月に開催が迫った「日本女性会議2008とやま」。これまで、その開催趣旨や歴史、過去の大会への参加報告等をお伝えしてきました。今回は、日本女性会議2008とやま実行委員会の委員長として、大会の準備に大忙しの高澤規子さんに本市での開催に向けた抱負を熱く語っていただきました。

Q1 「日本女性会議」とはどのような会議？

男女共同参画に関する国内最大級の会議イベントで、1984年に第1回名古屋大会が開催されて以来、毎年全国から多くの方々が集い、交流を深め、男女共同参画社会の将来像を全国に向けて発信しつづけています。

昨年は広島市で開催され、今年の富山市での大会が第25回目となる歴史ある大会です。

Q2 富山市で開催する意義は？

実行委員や関係者、多くのボランティアの皆さんや企業の方々のご協力を得ながら開催することにより、大会に参加される方だけでなく、富山市民一人ひとりが全国的な男女共同参画の取り組みについて理解を深め、行動に移していく大きなうねりとなることを期待しています。

Q3 これまでの活動状況は？

平成18年10月に実行委員会が発足以来、大会全体像の構成や組織体制の整備からスタートし、現在では、個々の分科会の詳細を詰める作業を行っているところです。

昨年10月に開催いたしましたプレ・イヤー記念「男女共同参画とやま市民フェスティバル」では、市民の皆さんをはじめ、全国からたくさんのご応募をいただいた「大会シンボルマーク」やレターメッセージ「あなたに届けたい一通の手紙」、フォト・アルバム「スマイル～Smile～」の表彰を行いました。

また、同じく10月に開催された広島大会において、本市が全国に誇ります「おわら踊り」を披露するなど、実行委員が富山大会の開催を大いにアピールしてまいりました。



実行委員長
たかさわ のりこ
高澤規子さん

Q4 みどころを含めて抱負を。

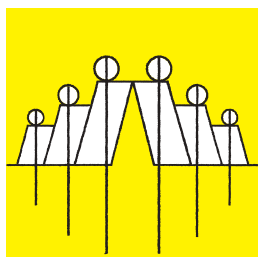
現在の日本の最先端の話題や、富山ならではの歴史・文化をテーマに、男女共同参画について話し合い、全国に男女共同参画社会の将来像を発信したいと考えています。講演やシンポジウム、13にわたる分科会に様々な分野でご活躍中の皆さんをお招きして、魅力いっぱいの大会にしたいと考えております。

また、この機会に、県外から参加される皆さんに、富山の自然や文化など、多くの魅力を感じていただき、富山を大好きになってもらえるような大会にしたいと考えておりますので、ますますの応援をよろしくお願いいたします。



昨年の広島大会や「男女共同参画とやま市民フェスティバル」でアピールイベントを行いました。

日本女性会議2008とやま



大会シンボルマーク

実行委員を中心に、ボランティアの協力も得ながら準備を進めていきます！

日時 10月17日(金)～18日(土)

19日(日)には、参加者に富山の魅力を堪能していただけるツアーを計画しています。

場所 オーバード・ホールを中心に市内各所で開催します。

大会テーマ きらめ
煌く人とひと、連なる峰々へ

1日目

10月17日(金)

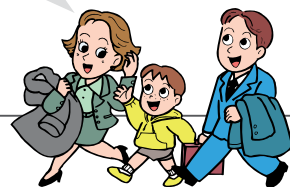
- 開会式典
- 基調報告
- 基調講演
- シンポジウム
- 交流会
- その他関連催事

2日目

10月18日(土)

- 分科会
- 記念講演
- 閉会式典
- その他関連催事

2日目の分科会では、「福祉・介護」や「地球環境」、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」をはじめ、生活に密着したテーマについて話し合います。



講師・パネリスト等の紹介

2日間の日程では、各界で活躍中の方を講師・パネリストにお招きして、最新的话题を取り上げます。

- ひろおか もりほ 広岡守穂さん(中央大学法学部教授、著書「男だって子育て」で1991年ベストメン賞を受賞)
- たかはし 高橋はるみさん(北海道知事)
- ばんどう まりこ 坂東眞理子さん(昭和女子大学 学長、ベストセラーになった「女性の品格」の著者)
- ひぐち けいこ 樋口恵子さん(評論家、NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」理事長)

上記以外にも、魅力いっぱいの方々をお招きします。ご期待ください。

(平成20年2月末現在での企画案であり、変更の可能性もあります。)

詳しくは、日本女性会議2008とやまオフィシャルホームページ(<http://www.2008toyama.jp>)をご確認ください。

☎日本女性会議2008とやま実行委員会事務局 ☎433-2008

連載 家庭の一場面から...

第2回「今の旬は...」



画・西藤久典さん

近ごろ、スーパーマーケットなどでは、お揃いで買い物をしているご夫婦やカップルが多く見られるようになりました。

妻にとって、たくさんの買い物を運ぶときなど、夫の「力」があったら助かるものです。「今日、何を食いたい? 疲れているのに悪いけど、一緒に買い物に付き合っ」という一声で、買い物も楽しくて愉快的時間に!

夫にとっても、豊富に並ぶ食材をあれこれ見ているうちに、普段何気なく食べている食事にも関心がわいて、「今はこの野菜が旬なのか。」「このお魚、おいしそうだな。このお肉も。ビールが進みそう。あっ、今度つまみでも作ってみようかな。」と、料理への興味が深まりそう。

そんなきっかけが、男性の家事参加を進める第1歩かも。一緒に買い物に出かけてみてはいかが?

男女共同参画社会づくり作文コンクール

男女共同参画社会の実現に向けた意識を高めるため、市内の中学生を対象に男女共同参画に関する作文を募集したところ、114点の応募がありました。

- 【最優秀賞】まえかわ前川 しょうたろう祥太郎さん（芝園中学校1年）
【優秀賞】あらい荒井 ゆうた優太さん（山室中学校1年）
うしじま牛島 みき未樹さん（芝園中学校3年）
かなやま金山 さとみ聖実さん（大沢野中学校3年）
みながわ皆川 えみか咲佳さん（片山学園中学校1年）



応募いただいた皆様、ありがとうございました。優秀作品の中から最優秀賞作品を紹介いたします。

最優秀賞

「生活の中から男女共同参画社会づくり」

芝園中学校1年 前川 祥太郎

僕の家では、食事時などに少子化のニュースが流れると、母が「男も家事くらいできないと結婚できないよ。」と僕に言い、姉には、「一生続けられる仕事と職場を選んで、結婚するなら育児も、家事も自然にしてくれる人を見つけなさい。」と言っている。それは、父のような人を探しなさいと言っているのだと思う。僕の父は、とてもよく家事をする。母には及ばないけれど、買い物、風呂掃除、洗濯物をたたむことなど、母が忙しそうにしていると、料理と洗濯以外は自然に手伝っている。母はそんな父に対して、時々お礼を言っている。

両親は、男だから、女だから、ということをおまわり言わない。僕や姉に手伝ってほしいときは、「人間、自分一人の衣食住のことくらいできないとだめだよ。」とか、「ちょっと助けてくれるかな。」という言い方をする。そう言われるとなかなか断れない。母は本当に人に物事を頼むのがうまいと思う。

また、向かいの家も、両親と小さい子供が二人いる核家族だが、ここのお父さんも子供の保育所の送り迎えや、庭の草むしりなどをしているのをよく見かける。仕事から帰って家事をしたり、子供の面倒をみたりするのがお母さんだけだったら大変だから、家族がお互いに助け合うことが必要だと思う。僕と姉は、家事や育児、仕事を協力して行っている両親の姿を子供のころから見ているため、男女が協力する考え方が当たり前のように身につけているのだと思う。

でも、このように家族で協力し合っている、子供が熱を出したときや、学校の行事の日には、母親が仕事を休むことが多い。以前は、僕の家もそうだった。母がよくいうのは、「十年前に比べたら、社会も職場も働く女性や男性の育児に理解が進んだと思うけれど、現実はそうはいかない。」ということらしい。

それから、以前は男性の仕事、女性の仕事という区別があった。保母さん、看護婦さんと呼ばれていた女性の仕事に、今では男性も就くようになり、保育士、看護師という男女平等の呼び方になった。仕事によっては、男性のほうが得意な分野や、女性のほうが向いているものもあるかもしれない。だが、僕の周りにも手先が器用でビーズアクセサリーを作るのがうまい男子や、腕力があって腕相撲の強い女子もいるから、性別によって、職業の呼び方や仕事を区別するのは不公平だと思う。その人が本当にしたい仕事を選んで頑張ることが社会のためにもなると思う。

男女共同参画社会というと、まず最初に女性が社会で働きやすい制度や女性の人権を守ることを指すものだと考える。でも反対に、女性が社会に進出して仕事をしたり、男性が家庭を中心に考えて働いたりできる社会でもあるのだと思う。そして、僕たちが大人になったとき、身近なところで「今日、子供が熱を出したので、早く帰ります。」と言う男の人がいても、周りから認めてもらえる社会になっていたらいいと思う。

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」が定められました

私たちにとって、仕事は生活を支えるとともに、生きがいや喜びをもたらします。また、同時に家事や育児・介護、そして地域とのつながり等は、生活に密着した大切なものであり、その両方が充実することが豊かな人生といえるのではないのでしょうか。

平成19年12月に、有識者や経済界、関係閣僚等により構成された「ワーク・ライフ・バランス推進官民トップ会議」において、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」及び「仕事と生活の調和推進のための行動指針」が定められました。これらは、めざすべき社会、「企業と働く者」、「国民」、「国」、「地方公共団体」が担う役割を示し、数値目標の設定や「仕事と生活の調和」実現度指標の活用により、「ワーク・ライフ・バランス」の進捗状況を把握・評価し、仕事と生活の調和した社会の実現をめざすものです。

～仕事と生活の調和が実現した社会～

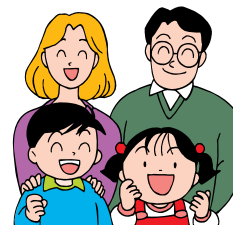
就労による経済的自立が可能な社会

健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会

多様な働き方・生き方が選択できる社会

<数値目標の例>

	現状	10年後には
週労働時間60時間以上の雇用者の割合	10.8%	半減へ
短時間勤務を選択できる事業所の割合	8.6%以下	25%へ
6歳未満の子どもをもつ男性の育児・家事関連時間	1日当たり60分	1日当たり2時間30分へ



詳しくは、内閣府共生社会政策統括官ホームページ <http://www8.cao.go.jp/souki> をご確認ください。

ハローワーク富山 「マザーズサロン」のご紹介

子育て中のお母さんにとって、就職準備をしたくても、子どもを抱えながらとなると何かと不自由なものです。ハローワーク富山では、子育てをしながら就職を希望される方や、仕事と子育てを両立するために転職を希望される方への支援を目的とした「マザーズサロン」を開設しています。



絵本やおもちゃ、DVDもあり、明るい雰囲気でも子どもたちも楽しく時間を過ごせます。

子ども連れの場合、お子様には、相談窓口のすぐ後ろにある「キッズコーナー」で楽しく過ごしてもらいながら、女性の相談員によるきめ細やかな職業相談が利用できます。平成19年5月開設以来、12月までに、既に570人もの方々が利用されています。電話での予約も受け付けていますので、ぜひお気軽にご利用ください。子育て中の男性も、もちろん利用できます。

〒461-8617 FAX461-8647

【所在地】湊入船町6-7 富山県民共生センター「サンフォルテ」
2階ハローワークプラザ富山内

【利用時間】月～(金)9:00～19:00 (土)9:00～16:00

【休館日】日・(祝・休)、年末年始(12月29日～1月3日)

【編集後記】「ワーク・ライフ・バランス」はこれからの社会全体のキーワード。就業されている方だけでなく、主婦の皆さんにとっても、家事労働と地域活動等とのほどよい調和が大事ですね。(五十嵐・越前・西藤)

編集 男女参画・ボランティア課(〒930-8510 あて先の所在地不要) ☎443-2051 FAX443-2176

【Eメール】daniyo-volun@city.toyama.lg.jp ご意見・ご感想をお寄せください